

昭島市立清泉中学校 令和5年度 学校経営方針

令和5年4月1日

昭島市立清泉中学校長 佐藤 晴美

I 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す

- | | |
|--------|--|
| 美しい心 | 正しい判断力、強固な信念、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神を養う |
| 創造的な知性 | 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度を養う |
| たくましい体 | 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を育てる |

II 経営理念 【Well-being】

- 「あい」にあふれる清泉中
生徒と教師の心が通いあい、学びあい、助けあい、励ましあうことを通じて、人とのつながりあいを大切に、互いを高め、成長できる学校

5つの「あい」	愛・上・合い・挨・（ ）
---------	--------------
- 地域とともにある清泉中
 - ・輝きと誇り《スピリッツとプライド》
 - ・信頼
 - ・やりがい
 - ・チーム
- 笑顔があふれる清泉中
- 真の「楽しい」を求める清泉中
- 意外性と多様性を受け止め、生かす清泉中

III 目指す学校像

生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集いあえる」学校の実現を目指す。

- 1 学校は「成長を実感できる場」である
- 2 学校は「自己実現できる場」である
- 3 学校は「夢や希望をはぐくむ場」である
- 4 学校は「安心して安全に生活できる場」である
- 5 学校は「『意外性』と『多様性』を生かしていく場」である

Ⅳ めざす教師像 【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】

- 1 生徒一人一人を大切にする教師 (声を聴く、対話から導き出す)
- 2 1時間1時間の授業を大切にする教師 (声を聴く、授業の質を向上する)
- 3 生徒・家庭・地域から信頼される教師 (声を聴く、自らの背中を範を示す)
- 4 「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 (声を聴く、意思を統合する)
- 5 清泉中を愛する教師 (清泉プライド！)

Ⅴ 学校経営の基本方針

学校経営は、教育目標の実現を目指し、生徒の可能性を信じ、よさ(強み)と課題を明確にする。その課題を踏まえ、教育活動の一層の充実を図っていく。

これからの社会においてたくましく生きる生徒(「たくましい昭島っ子」)を育成するために、生徒の基礎学力や体力の向上、そして豊かな心の育成するために、学校教育全体を通じて、生徒一人一人の規範意識の醸成を図りながら、生徒自らが主体的に考え・判断・表現していく場面を意図的に設定していくとともに、人との関わりを通じて、自己有用感を大いに感じられる教育を推進していく。

特に、「主体的・対話的で深い学び」は全教科等で「授業改善のポイント」として位置付ける。そのためにも、授業規律を整え、適切な指導計画に基づいた指導を進めるとともに、学習の主体者である生徒が、その時間の学習目標を理解し(単元・題材によっては自分で目標を設定し)、学習に対する意欲をもち、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業への改善を図る。

生活指導においては、育てたい生徒像を明確にし、日常からの基本的な指導の積み重ねと自らの行動を考えさせる指導を重視し、生活の主体者として育成を図る。特に、生徒の落ちついた学校生活の基礎となる学級における指導を重視し、学級での生活のルールとマナーを考えさせるとともに、生徒のよさを生かしながら、学級・学校の一員としての意識を高めさせるように指導する。生徒の発想や行動を積極的に評価し、生徒の主体性を伸ばす指導として生徒会活動等の活性化を図る。問題行動への対応は、当該生徒の望ましい学校生活への適応のステップとして、保護者及び関係機関と適切な連携を図りながら進める。

目指す学校像としては、生徒が自分のよさや自分が学級・学校に役に立っている存在であることに気づき、「学校が楽しい」「ここにいていいんだ」という安心感をもち、「笑顔で学校に通う」環境を生徒、教職員、家庭・地域とともに作っていく。そのために、「いじめをしない、させない、許さない」など、「ダメなことはダメ」という学校としての姿勢を明確にするとともに、「対話」を重視し、それぞれの考えや思いを聞きながら、その生徒一人一人の可能性を信じた指導と支援を行っていく。

清泉中に関わるすべての者が「清泉中スピリッツ」と「清泉中プライド」をもてる学校となるよう、努めていく。

VI 令和5年度の重点

1 学習指導

- 主体的な学びがある
- 個別最適な学びがある（指導の個別化、学習の個性化、ICTの効果的な活用）
- 協働的な学びがある（対話的な学び、課題解決に向けた協働）
- 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的な学習に取り組む態度（自己調整力）」を柱にした手立てがある

2 生活指導・進路指導

- 生徒との対話（非言語も含む）を通じて、生徒理解を深める
- 規範意識のある自己肯定感、自己有用感の醸成を進める
- いじめをはじめとする諸問題に対して、見逃し「0」・未対応「0」とする
＊清泉中という組織的対応であること
- 健康な心と体を育む
- 人と関わる機会を設定する
- 主体的に考え、他者と（状況に応じては自分と）の対話を通じて判断し、行動する機会を見守る
- 自分の可能性やよさ（強み）を考える場面がある
- 体験活動や地域人財（材）とふれ合い、学ぶ機会を積極的に位置づける
- 誰にとっても分かりやすい、丁寧で、明確な指示を心がける

3 学校経営

- 本学校経営計画を踏まえ、清泉中学校の教職員として、組織的に考え、行動する
- 社会に開かれた教育課程を推進する
- 誰一人取りこぼさない教育を実践する
- 障がいの有無に関わらず、特別支援教育を礎として指導・支援を行う

4 特別活動

- 生徒が考え、決定し、実行する（守る）教育活動を重視する
- どの生徒も大切な学級・学校の一員である意識を醸成する

5 その他

生徒に関わる大人が範を示す（言動だけではなく、生き方も含めて）

- 教師も「学ぶ」ことを楽しむ（職に関わる自己研鑽だけではなく、趣味も含めて）
- 日々の授業の質の向上や生徒一人一人に丁寧に、かつ、誠実に向き合うために、教師自身の「ライフ・ワーク・バランス」を重視する
- 服務事故「0」のために、自己の状況を振り返るとともに、清泉中の「同僚性」を生かす

＊何事も、「考え、判断し、実行」に移してください。前例踏襲である必要はありません。

「よきものである、必要だと考える」だから「今年は継続する」とは意味が違います。

担当者の考えや思いをぜひ提案してください。